

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	勤医協グループホームたんぽぽ 1Fユニット	評価実施年月日	2009年9月15日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	2009年9月30日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	各ユニットで自分たちの理念を作りホーム内に掲示している。	○	実践を重ねる中で理念の見直しも検討してゆく。
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	出来る限り研修会などに参加しており、日常的にも学習会を定期的におこなっている。	○	今後とも出来る限り内外の研修会、学習会に職員を参加させてゆきたい。
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	運営推進会議や地域の懇談会などで具体的な取り組みを紹介することで、理念を理解していただけるよう勤めている。認知症をテーマにした懇談会を地域で行っている。	○	今後も地域の懇談会などで啓蒙してゆきたい。
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	隣近所の方々との挨拶や会話を日常的に心がけている。隣の市民菜園を借りそこで顔を合わせる地域の方々との会話を交わしている。慰問での催し物があるときに近所にチラシでお知らせし、気軽に来ていただけるように勤めている。	○	ホーム内で地域の方々と一緒に楽しめる行事などを行ってゆきたい。
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	町内会に入会し回覧板の受け渡しや町内会の行事への参加を行っている。具体的には花見と焼肉や新年会への参加、市民菜園での野菜作りなどを行っている。	○	今後も町内会の行事などに積極的に参加し交流を深めて行きたい
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	町内会の公園清掃に参加している。市民菜園の周りの草取りに参加している。地域で認知症をテーマにした学習会を行っている。	○	今後も機会を見て取り組んで行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	職員全員で自己評価を行っている	○	外部評価の意義や流れを学習する
<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	一連の事業報告は行っているが特に事業所に対する意見要望は少なく雑談になることが多いので課題です	○	参加者が率直に意見が言えるための雰囲気作りが必要
<p>○市町村との連携</p> <p>9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	運営上解からないことがあれば北見市の介護福祉課に相談しながら行っている		
<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>10 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	9月の部会の中で権利擁護についての学習会を行っている	○	年に1度は権利擁護についての学習会を計画する
<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	ケアカンファレンスを定期的に行い介護の質の向上を目指す中で虐待の発生を未然に防いでゆく。又部会の中で日常の介護実践のなかで気になることなどを率直に出し合う	○	人権意識を磨くためにも各種の研修会や学習会、事例検討会に参加し自らの介護を振り返る機会を多く持ってゆきたい
4. 理念を実践するための体制			
<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	実施している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>重要事項説明書の中に苦情処理の手順を掲載している。この1年間苦情は寄せられていない</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月1回「通信」を発行してホームでの様子や行事などを載せご家族へ送っている。お預かりしているおこずかいの収支も同封している健康に異常が生じた場合はマニュアルに沿った対応をすると同時に家族に報告している。スタッフが受診に付き添った場合は結果を家族に報告している</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>重要事項説明書の中に苦情処理の手順を掲載している。この1年間苦情は寄せられていない。運営推進会議の中で利用者の家族から意見を頂く場を設けている。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回各ユニットごとに部会を開き意見を出してもらう。月1～2回管理者と主任の会議を開き意見を聞いている。日常的にも現場の意見や提案に柔軟に耳を傾け、良いものは運営に反映させている</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>夕方から寝る前にかけて利用者の対応に追われるため11:30～19:45までの遅出勤務を付けている。又往診の日やレクリエーションの日にはスタッフを多く配置する努力をしている</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の移動はユニット間で年1～2回であり利用者に対する影響は少ない。働きやすい職場作りのために出来る限り職員の意見を取り入れる運営を心がけている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	この1年間内外の研修に出来る限り職員を参加させている。月1～2回のミニ学習会を行っている	○	今後も出来る限り研修会などに職員を参加させてゆきたい。毎月1～2回の学習会を行ってゆきたい
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	北海道グループホーム協議会に入会し、研修会などに参加している	○	引き続き研修に最大限職員を参加させてゆきたい
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	GHの隣にある市民菜園を借り、入居者と共に畑仕事を行い、心身共にリフレッシュをめざしている。広く見晴らしのよい休憩室で、ゆっくり休憩し、気持ちを切り替え仕事ができるように配慮している。面談などで職員の要望や不満を良く聴くようにしている		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	定期面談を行うなかで、自己目標を持ってもらい、より上の資格取得をすすめている。介護福祉士については資格手当を1万円/月とし、全員資格取得を目指している	○	今年度は6名が介護福祉士の国家試験を受験する予定
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居者本人から相談される時は話を傾聴し不安を取り除いてゆくようになっているが、とすれば家族とのかかわりを重視するあまり、本人の意向についての聞き取りが不十分なケースもあり今後の意識的なかかわりが求められる	○	本人との信頼関係を築くための面談も積極的に行ってゆきたい
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の思いは最初に相談にいらした時点で充分聞くように努力しており、認知症を抱える家族の苦勞に共感することで信頼関係を築くよう努力している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居を希望される方についてはすでに介護サービスを利用している人もいるが、全く介護サービスについて知識がなく、過度の介護負担を感じている方も多い。入居待ちの間は適切なサービスの紹介も行き、家族の介護負担の軽減を図っている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族より知りうる限りの生活暦や要望を聞き本人の24時間シートを作成し個別アセスメントを行いサービスの検討を行い本人が納得できるように努めている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は入居者と生活を共にし、畑仕事、調理などを一緒に行うことによりたくさんの方の事を教えていただき人生の先輩として入居者を敬愛している	○	入居者1人1人の隠された才能を引き出せるようなケアを行ってゆきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月家族にホームでの様子を写真や文章で「通信」として伝え喜ばれている。小さなことでも家族に報告し信頼関係を築くよう努めています	○	行事など家族にもあらかじめ伝え一緒に参加していただき楽しい時を過ごしていただきます
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	職員は本人、家族の思いを理解しやさしい言葉で伝え離れていても気持ちは寄り添っていることを実感できるよう努めています		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の面会や外出、外泊などをしていただくことにより関係の継続を支援してゆきたい		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者1人1人がみんなの輪の中に入りやすいよう声かけをし、孤立しやすい入居者に対しては職員が1対1で対応しながら援助している		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	適応する対象者はなし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の様々な場面での観察やカンファレンスでアセスメントすることで理解を深めている	○	カンファレンスの継続
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式のアセスメントを行う中で把握に努めている	○	カンファレンスの継続
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式のアセスメントを行う中で把握につとめている	○	カンファレンスの継続
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式のアセスメントシートを使いカンファレンス、ミニカンファレンスを開きながら介護計画を作成している	○	カンファレンスの継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的にカンファレンスを開催している。状態の変化があった時には、随時カンファレンスを開き対応している		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録のほかに連絡ノートを設け個々の利用者についてきずいたことを記入している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	遠方からご家族がいらした場合は家族と一緒に時を過ごしたいという希望があれば、居室に泊まっていただくことも可能です。認知症デイサービスが隣であり、廊下でつながっており、気軽に行き来できるようになっており、合同でレクを行うこともある	○	踊りや三味線などの慰問の時に近所にもチラシで呼びかけて、数人の方が見えた。今後も地域の方々とつながりを大事にした運営を行ってゆきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会の行事への参加や踊りや太鼓、フラダンス、人形劇などの慰問を招くなどの取り組みをしている。年2回消防署の火災訓練を行っている。例年参加している健康祭りと菊祭りは新型インフルエンザの流行のため参加は見合わせた	○	ひき続き取り組んでゆきたい
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在はそのような意向や必要性はない		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在はそのような意向や必要性はない		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	病院の受診が必要な場合は本人の訴えにもとずき、ご家族に状況を伝え適切な病院を受診していただいている。かかりつけ医に対しては受診時必要な情報提供を行っている。希望者に対しては内科、皮膚科、歯科医の往診も行われている。診察後の家族に対する報告も行っている		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医とはいえないかもしれないが、ほとんどの利用者が内科もしくは精神科、脳神経外科にかかり治療を受けている		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者が看護師であり日常的に健康管理を行っている訪問看護ステーションと医療連携を行っており必要時訪問や電話相談、週1回の定期訪問により健康チェックを行っている		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	特になし		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時、ご家族に対しては終末期の意向を伺うことにしていますが、いざその状況になった場合には本人家族の意向を充分ふまえた上で決めてゆければいいと考えています。部会で当事業所の「看取り指針」を再確認の意味で学習した	○	機会があればターミナルケアの学習を行う
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在は対象となる利用者はいない	○	他のグループホームでの事例の報告などから学んでゆきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	この1年間はこのようなケースは無し		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	入居者さんへの言葉かけや対応など職員同士お互いに気を付け指摘しあい、部会で提案しみんなで検討している		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	日常生活の中でその人がどのように生活したいかなど、表情や言葉などから本人の希望やおもいを知りケアに結びつける支援を勤めている。		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	強制的な言葉かけや誘導はせず散歩、体操、入浴など、声をかけ参加するかしないかは本人に選択してもらうようにしている。食事や入浴時間も決めていず、その人のペースに合わせて決めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	好みの髪型や洋服を選んでもらっている。希望する入居者さんにはゆきつけの店に行っていただくこともある。普段は訪問利用に来ていただいている。		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	利用者の能力に合わせて調理、配膳、準備、片付けなど職員と一緒にいき、一緒に食事を食べている。おやつも手作りのものも取り入れながら、楽しんでいる。年に1回は外食を楽しんでいる	○	手作りのお弁当を持つての外出も行いたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	晩酌の習慣のある利用者には夕食時、量を決めて飲んでいただいている。おやつや飲み物も本人の嗜好やその時の好みに応じて提供している。タバコは喫煙室で吸っていただいている		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者の排泄パターンにあわせ、声かけ、トイレ誘導を行っている。失禁していても交換を拒否する利用者もいるが、忍耐強くかわり、少しずつ交換できるようになってきている。日中は出来るだけ紙パンツをはかず布パンツにしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日などは決めずに、希望を重視しながら入浴援助をしている。入浴拒否をする利用者についても、拒否する原因を探り、不安を取り除くような援助で忍耐強く働きかけ、入浴していただくようにしている。異性の介助を拒否する利用者については同姓の介助者が行うようにしている		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	起床や就寝を無理強いしないようにしているが、昼夜逆転になる利用者はいない。個々の生活のリズムを尊重した援助を心がけている。日中でも疲れているような時には休んでいただくようにしている。安眠できるような室温や湿度管理を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	女性の入居者さんには、主に食事に関する役割を持っていただいたり、男性の方は力仕事など生活歴に合わせた役割を持っていただいている。月1～2回はみんなで外出したり、慰問を呼んで歌や踊りなど披露してもらい楽しんでいる。又春から秋にかけては隣の市民菜園で畑作りを職員と一緒にいき収穫の喜びを味わってもらっている		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	みんなで買い物に行った時には出来る限り、本人が自分のお財布からお金を払うようにしている。本人の希望で通帳を手元に置いておきたいと言う利用者については、印鑑はご家族に預かってもらい、通帳のみ自分で管理している利用者もいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気がよければ、戸外で日光浴や、近所を散歩します。徘徊のある利用者が外に出たがるときには、職員が付き添い外を歩いてくることもある	○	職員の体制ですべての希望には応えられないのも現実にはあるが、出来る限り応えてゆきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月2回は遠出の外出を行ったり、年2回は外食を企画している。個別にはクラシックの好きな利用者さんと職員と一緒にコンサートに出かけたこともある	○	一緒に外出を希望する家族にも参加していただけるような企画を立て呼びかけてゆきたい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じてご家族への電話はしていただいている。手紙のやり取りを希望されている利用者は現在はいない		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来所されたご家族や友人に対しては希望に応じて、居室や居間などで自由に面会して頂き、お茶を出しゆっくりしていただいている。帰る際には「ありがとうございました」との声かけを行うようにしている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束廃止」の研修会に職員を参加させ、事業所内でも繰り返し学習会を行い、理解を深めている。気になることは部会やカンファレンスで出し合い話し合っている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関及び居室の施錠はしていない	○	徘徊の恐れのある利用者に対しては、コミュニケーションを充分にとることによって、願いや思いを危険のない形で実現させてゆく努力をしたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者がどこにいて何をしているかプライバシーを侵害しない形でさりげなくしながら把握している。居室で1人で居たい時にはそっとしておくなど配慮し利用者の状況にあわせ声をかけている		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険物はかぎのついた棚に保管し利用者の視野に直接入らないようにしている。石鹸や歯磨き粉など自室で管理できる利用者には管理していただき、管理できず危険のある利用者には職員が預かり必要時使っていただくようにしている		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒の恐れのある利用者は職員から目の届きやすい位置の居室にしており、又必要な利用者には居室にセンサーを設置し予防している。喫煙室を設けタバコライターの管理をしている。洗剤や漂白剤は鍵のかかる棚に保管している。年2回火災訓練を行い、消防署から指導を受けている		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	誤嚥時の対応を学習会で学習した	○	症状別の対応を学習会で学習してゆきたい
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回は火災訓練を行っている		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ケアプランの説明時リスクについても説明し事故防止のための予防策も説明させていただいている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	月1回各ユニットごとに部会を開き意見を出してもらう。月1～2回管理者と主任の会議を開き意見を聞いている。日常的にも現場の意見や提案に柔軟に耳を傾け、良いものは運営に反映させている	○	病気や健康管理について学習会などで学んでゆく
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬が処方されたら必ず説明書を読み、服薬準備はダブルチェックを行い、服薬時には名前、日付け、いつ飲むものなのかを声を出し確認を行っている。薬杯やオブラート、水や好きな飲み物に混ぜるなど1人1人の利用者に合わせて服薬を行っている。	○	薬の効用のみならず副作用などについても学んでゆきたい。利用者の状況に応じた安全な服薬援助を行ってゆきたい
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	起床後牛乳など冷たい飲み物やヨーグルトを飲んでいただいたり、水分補給や食物繊維を多く摂ることを考えた献立作りなどをおこなっている。慢性の便秘がある利用者については医師の指示のもと下剤で調節している方もいる	○	食事の工夫や排便習慣をつけるはたらきかけで下剤に頼らない便秘対策を行ってゆきたい
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後のうがいや義歯洗浄のほか、口臭や舌苔のある場合は重曹を使っての口腔清拭や舌のブラッシングを行っている	○	義歯の洗浄を拒否する利用者の対応が課題です
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事摂取量と水分摂取量のチェックを行い足りない場合は、食材や形態の工夫や本人の嗜好を考えた食事を提供するなどを行っている。どうしても必要な量が摂取できない場合は医師の指示のもとエンシュアリキッドを飲んでいただく方もいる		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルにもとずいて行っている。新型インフルエンザについてもマニュアルを作成行っている。季節に応じた感染症の学習を行っている	○	定期的な学習会

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	炊事担当者の手洗いの徹底やふきんやまな板の消毒を行っている。食材はこまめに発注するようにしている。又冷蔵庫の中には最小限の食材しか置かないよう気をつけている。毎年6月に食中毒予防の学習会を管理栄養士の講師で行っている。夏場は生ものは献立に入れない	○	食品管理マニュアルの作成
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関を出たところは南向きで、建物に沿ってL字型に広いスペースになっており、来客者の車の駐車スペースも充分ある。春～秋はプランターに花を植え季節を感じられるようにしています。緩やかなスロープがあり両脇に手すりが設置されている。スロープ部分の地面はロードヒーティングになっている。	○	建物の概観がやや殺風景なので外回りの工夫が必要
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ソファに座ってテレビを見る時、その先に1段高い和室が目線に入り広がりを感じられる。和室の存在が心を和ませる。大きな窓からは向かいの山の四季折々の景色が見えて大変気持ちが良い。フローには季節の花や、壁の飾りで季節感を出す工夫がなされている。台所は利用者が座るテーブルから良く見える位置にあり、調理している様子などが見え家庭的な雰囲気を感じる	○	安全面を考えると殺風景になりがちなので、より居心地の良い味のある空間作りが望まれる
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間の食卓テーブルは個々の席が決まっており各々の席でくつろぎお茶を飲んだり音楽を楽しんでいる。廊下のあちこちに小さなソファが置いてあり、一人でゆっくり外を見たり考え事をしたりできるようになっている。又、気の合う人と2人で話したりできるようになっている		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	多くの居室は午後より日が当たり明るく温かい。物の整理がしやすいように壁の1面は棚になっており棚には馴染みのものや家族の写真などが飾られている。部屋は7帖と狭いため馴染みの家具を持ち込むほどのスペースがないため、プラスチックの衣装ケースなどを使っている方も多く室内が殺風景になりがちである	○	ご家族とも話し合いながらより居心地の良い家庭的な居室の工夫が課題である
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計、湿度計を設置しそれにもとずき換気や暖房を調節している。朝の清掃時に窓を開け換気している。冬は洗濯物を室内に干したり、濡れたタオルを干したりしながら湿度を保つようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム内はバリアフリーになっており、動線には障害になるようなものは置かれていない。洗面台は広く車椅子のまま使用できる。トイレは1ユニットに4箇所あり、中も広くゆったり使えるようになっている。要所に手すりが設置されており、安全に移動が可能である</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレの戸の色を黄色にそろえ、居室との違いを出し、間違わないようにした。トイレの表示を「便所」とした。居室の照明のスイッチをひも式にし、誰でも使えるようにした</p>	<p>○ 個々の残存能力を把握しカンファレンスで話し合いできることを本人にしてもらうように働きかけている</p>
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関前にプランターを置き季節の花を生けている。建物の前にはひろいスペースがあり、入居者が日向ぼっこをしたりできる。夏はそこで焼肉や花火をして楽しんでいる</p>	<p>来年は建物の西側の空きスペースに畑を作り作物を植え楽しみたい</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ○②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) その人らしさを援助するより具体的なケアプランの作成と実践。「第2の我が家」として安心して生活でき、家族や友人との繋がりも断ち切らない居心地の良い居場所作り。入居者同士のふれあいを大切にするための支援。認知症になっても人として持っている当たり前の人権を守り抜く援助